



## 蜂刺されに注意!!

	スズメバチ	アシナガバチ	ミツバチ
危険度	毒性・攻撃性が高い 針返し無い	大人しいが 毒が強力 針返し無い	大人しい 巣が大きい 針に返しがあり 毒囊が残る



春：女王蜂が一匹で巣作り開始

巣は 15 cm以下

初夏：働き蜂が少しずつ育つ

働き蜂は数十匹

巣は 15~40 cm

夏：働き蜂の巣を守る防衛行動

**攻撃性が高まり一番凶暴で危険!!**

働き蜂は 300 匹以上

巣は 30~80 cm

夏~秋、餌(芋虫等)が減り

**餓えて気が立っていて危険!!**

働き蜂は 1000 匹以上のことも

冬：巣で生まれた新嬢王蜂が越冬

(他の蜂は死ぬ)

### 【予防】

- ①蜂の巣や蜂に近づかない
- ②黒地の着衣を避ける(できるだけ白色系がよい)
- ③肌の露出をなくす
- ④香水や化粧品、整髪料を控える
- ⑤蜂や巣に遭遇しても、大きな声を出したり、手足で追い払ったりしない  
静かに・速やかに・その場を離れる
- ⑥自然の多い場所に出かける時は、**ポイズンリムーバー、抗ヒスタミン入りステロイド軟膏、保冷剤**などを準備すると安心
- ⑦1回蜂に刺された方は、2回目以降、蜂毒に起因する「アナフィラキシーショック」(抗原抗体反応)により死亡に至る場合がありますので、補助治療剤のアドレナリンの自己注射器(エピペン)を医師に処方してもらい携帯する

参考：厚生労働省 安全プロジェクト H28年度、 林業・木材製造業労働災害防止協会

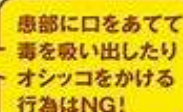
## 蜂に刺された時の応急処置

**慌てず冷静に対処** ※刺激しないようゆっくり 10~20m逃げる

### ハチに刺されたときの応急処置

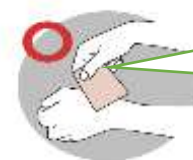
- ① 症状の確認
- ② ハチの針を抜く
- ③ 流水で毒を取り除く
- ④ 薬をぬる
- ⑤ 冷やす

※全身症状が出たらすぐに病院へ!



患部に口をあてて毒を吸い出したりオシッコをかける行為はNG!

毒液に蜂の仲間を呼び警戒フェロモンがある



カードで横から払い針を抜く

- ①症状観察 局所(発赤・腫脹・疼痛)と全身症状(直後と翌日以降)
- ②残った針を指でつまむと毒囊を圧迫してしまうので  
毛抜き又は硬いカードなどで横に払いこすり取り毒囊を潰さない
- ③毒の回りを防ぐ※ 刺された人は**動かない**
  - ポイズンリムーバーがあれば、2分以内に毒を吸出だす  
吸ったまま **10分**程度置く(※毒をきちんと吸い出)  
決して口で吸わない
  - 刺された部分を**水で洗い流す**
  - 抗ヒスタミン成分を含むステロイド軟膏があれば塗る
  - 保冷材などをガーゼ包み冷やす 処置後は受診
- ④アナフィラキシーショックの兆候  
(発疹・全身熱感・咳・息苦しい・眼がくらむ・吐気・腹痛等)  
足を挙上し、アドレナリン注射があればその場で使用  
至急、静かに受診 静岡済生会病院 054-285-6171 救急車 119

